



平成31年7月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年12月10日

上場会社名 株式会社シーズ・ホールディングス
 コード番号 4924 URL <https://ci-z-holdings.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成30年12月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年7月期第1四半期の連結業績(平成30年8月1日～平成30年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年7月期第1四半期	10,953	1.7	396	82.9	449	80.8	219	86.1
30年7月期第1四半期	10,767	14.1	2,314	29.0	2,346	27.9	1,583	24.6

(注) 包括利益 31年7月期第1四半期 268百万円 (83.6%) 30年7月期第1四半期 1,636百万円 (26.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年7月期第1四半期	4.52	
30年7月期第1四半期	32.56	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年7月期第1四半期	50,726	32,904	62.8	654.52
30年7月期	53,001	35,408	64.8	706.48

(参考) 自己資本 31年7月期第1四半期 31,832百万円 30年7月期 34,359百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年7月期		0.00		57.00	57.00
31年7月期					
31年7月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年7月期の連結業績予想(平成30年8月1日～平成31年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	27,000	13.1	4,300	11.8	4,300	12.5	2,770	14.8	56.95
通期	59,000	15.8	10,000	14.3	10,000	13.2	6,500	13.8	133.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年7月期1Q	48,635,255 株	30年7月期	48,635,255 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

31年7月期1Q	188 株	30年7月期	151 株
----------	-------	--------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

31年7月期1Q	48,635,095 株	30年7月期1Q	48,635,136 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されております。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。また、相次いでいる自然災害の経済に与える影響に十分留意する必要があります。

このような環境の中、当社は平成30年10月23日開催の取締役会において、ジョンソン・エンド・ジョンソンによる当社の普通株式に対する公開買付けに応募することを推奨する旨を決議いたしました。なお、当社の上記取締役会決議は、公開買付者が本公開買付け及びその一連の手続を経て、当社株式全てを取得することを企図していること及び当社株式が上場廃止となる予定であることを前提としております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績については、前連結会計年度に引き続き通信販売の業績が不調であったと共に、前連結会計年度に好調であった卸売販売の業績が、インバウンド需要の減少に伴い、大幅に減少いたしました。

以上により、売上高は10,953百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は396百万円（前年同期比82.9%減）、経常利益は449百万円（前年同期比80.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は219百万円（前年同期比86.1%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<ドクターシーラボ事業>

ドクターシーラボ事業をブランド別に見ますと、ドクターシーラボブランドは、「スーパーホワイト377VC」、スーパー100シリーズの「EGF」などのスペシャルケア商品について好調に推移いたしました。一方で、「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」や「VC100エッセンスローションEX」のTVCMを放映するなど、積極的な広告販促活動を進めてまいりましたが、売上構成割合の高い通信販売の不調を受ける形で売上高は想定通りの売上を獲得するには至りませんでした。

ラボラボブランドは、海外市場での需要は引き続き堅調であったものの、インバウンド需要の売上高を牽引していた「スーパー毛穴ローション」が内外価格差の縮小などの影響により、インバウンド需要の減少に伴い、前年同期比で大幅な減収となりました。

ジェノマーブランドは、高価格帯のブランドとして認知を高める施策を行っている中、前年同期比で売上高が伸びました。

健康食品については、広告販促費の投下を抑制したことに加え、当第1四半期連結累計期間においては新規販路の拡大を積極的に行わなかったことにより、前年同期比で減収となっております。OTC医薬品については、平成30年9月に新商品「モレスト漢方錠」を発売いたしました。

以上により、ドクターシーラボ事業の売上高は、8,386百万円（前年同期比16.9%減）、営業利益は522百万円（前年同期比76.3%減）となりました。

次にドクターシーラボ事業を販路別に見ますと、通信販売においては、前連結会計年度に引き続き、当社が目標としている購入顧客数の回復には至りませんでした。新たな顧客層の獲得及びライトユーザーの購入定着化を図るべく、TVCMなどの広告販促費用を積極的に投下したものの、当社が想定している売上高には達しませんでした。以上により、通信販売の売上高は4,784百万円となり、前年同期と比較して5.3%減少いたしました。

卸売販売においては、中華圏のお客様に人気がある「スーパー毛穴ローション」の内外価格差が減少し、海外でも同商品の需要が相対的に高まったことに伴い、国内におけるインバウンド需要が前年同期比で大幅に減少いたしました。以上により、卸売販売の売上高は1,157百万円となり、前年同期と比較して63.7%減少いたしました。

対面型店舗販売においては、当第1四半期連結累計期間において1店舗の閉店をいたしました。新規顧客獲得及び既存顧客維持のために、継続的なお手入れ会を実施したことに加え、商品の試用・カウンセリングを提供する機会を多く設けるなどの施策を積極的に行ってまいりました。さらに外国人観光客のインバウンド需要拡大が継続していることもあり、売上高は好調に推移いたしました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、1,118百万円となり、前年同期と比較して6.8%増加いたしました。

海外においては、米国のジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業主導のもと、主にアジア圏の国を対象とした広告販促活動を積極的に実施いたしました。特に海外の国別売上割合が高い中国国内において、独身の日に向けた商品の出荷を積極的に行い、順調な売上高推移となりました。以上により、海外の売上高は1,326百万円となり、前年同期と比較して63.8%増加いたしました。

<エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、企業別に見ますと、まず株式会社シーズ・ラボは当第1四半期連結累計期間において1店舗の新規出店を行いました。売上高については、前年同期比で増収となったものの、フェイシャルやニキビケアといった単価の低い施術が、高単価のボディ・ダイエットといった施術よりも人気であったため、前年同期比で収益性は改善しませんでした。

次に株式会社セドナエンタープライズが運営する脱毛ラボについては、当第1四半期連結累計期間において需要の閑散期に入ったことに加え、前連結会計年度に引き続き広告単価が高止まった影響により収益性は悪化いたしました。なお、株式会社セドナエンタープライズは、前第2四半期連結会計期間から連結対象となっております。

以上により、エステ・サロン事業の売上高は、2,566百万円（前年同期比282.9%増）、営業損失は123百万円（前年同期は営業利益110百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月11日に発表しました連結業績予想は変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,723,939	22,593,243
受取手形及び売掛金	6,394,273	4,637,915
有価証券	50,611	51,743
商品及び製品	3,504,735	3,893,745
原材料及び貯蔵品	1,638,696	1,807,689
その他	1,448,990	2,179,990
貸倒引当金	△252,587	△232,297
流動資産合計	37,508,660	34,932,029
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,928,483	1,935,743
減価償却累計額	△676,098	△683,229
建物(純額)	1,252,385	1,252,513
工具、器具及び備品	2,813,882	2,925,478
減価償却累計額	△1,986,697	△2,061,327
工具、器具及び備品(純額)	827,184	864,151
土地	1,315,861	1,315,861
その他	89,634	50,410
減価償却累計額	△14,591	△16,091
その他(純額)	75,043	34,319
有形固定資産合計	3,470,475	3,466,845
無形固定資産		
ソフトウェア	1,881,642	1,782,434
ソフトウェア仮勘定	16,950	95,344
商標権	2,355,271	2,291,689
のれん	6,443,293	6,240,857
その他	1,598	1,546
無形固定資産合計	10,698,756	10,411,872
投資その他の資産		
その他	1,429,186	2,032,233
貸倒引当金	△105,352	△116,852
投資その他の資産合計	1,323,835	1,915,380
固定資産合計	15,493,067	15,794,099
資産合計	53,001,728	50,726,128

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,058,102	1,153,510
未払金	1,660,928	2,180,090
1年内返済予定の長期借入金	800,000	800,000
前受収益	481,666	396,666
前受金	7,355,978	6,798,090
未払法人税等	1,150,953	229,000
賞与引当金	126,049	203,041
ポイント引当金	188,128	197,436
その他	770,865	2,037,620
流動負債合計	13,592,673	13,995,457
固定負債		
退職給付に係る負債	294,873	301,386
長期借入金	2,672,000	2,474,000
その他	1,033,694	1,050,612
固定負債合計	4,000,568	3,825,999
負債合計	17,593,242	17,821,456
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,959,358	2,959,358
資本剰余金	3,436,758	3,436,758
利益剰余金	27,916,949	25,364,463
自己株式	△621	△776
株主資本合計	34,312,444	31,759,804
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,372	18,900
為替換算調整勘定	24,035	53,735
その他の包括利益累計額合計	47,407	72,635
非支配株主持分	1,048,634	1,072,232
純資産合計	35,408,486	32,904,671
負債純資産合計	53,001,728	50,726,128

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成29年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成30年10月31日)
売上高	10,767,790	10,953,068
売上原価	2,517,973	3,208,597
売上総利益	8,249,817	7,744,470
販売費及び一般管理費	5,935,630	7,347,997
営業利益	2,314,186	396,472
営業外収益		
受取利息	345	1,015
受取配当金	—	230
為替差益	15,681	14,099
受取手数料	7,609	5,645
商品破損受取賠償金	3,263	2,865
その他	6,383	29,779
営業外収益合計	33,283	53,635
営業外費用		
支払利息	28	657
その他	961	36
営業外費用合計	990	694
経常利益	2,346,479	449,414
特別利益		
投資有価証券売却益	15,912	24,747
特別利益合計	15,912	24,747
特別損失		
減損損失	—	15,773
固定資産除却損	1,264	15,287
特別損失合計	1,264	31,061
税金等調整前四半期純利益	2,361,126	443,100
法人税等	737,920	197,869
四半期純利益	1,623,206	245,230
非支配株主に帰属する四半期純利益	39,610	25,514
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,583,596	219,715

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年8月1日 至 平成30年10月31日)
四半期純利益	1,623,206	245,230
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,718	△6,388
為替換算調整勘定	18,220	29,699
その他の包括利益合計	13,501	23,311
四半期包括利益	1,636,708	268,541
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,598,513	244,943
非支配株主に係る四半期包括利益	38,194	23,597

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成29年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシー ラボ事業	エステ・サロ ン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	10,097,655	670,134	10,767,790	—	10,767,790
セグメント間の内部 売上高又は振替高	33,626	8,548	42,174	△42,174	—
計	10,131,281	678,683	10,809,964	△42,174	10,767,790
セグメント利益	2,202,925	110,908	2,313,834	352	2,314,186

(注) 1. セグメント利益の調整額352千円は、未実現利益及びセグメント間取引の消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成30年8月1日至平成30年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシー ラボ事業	エステ・サロ ン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	8,386,826	2,566,241	10,953,068	—	10,953,068
セグメント間の内部 売上高又は振替高	66,439	20,695	87,135	△87,135	—
計	8,453,266	2,586,937	11,040,204	△87,135	10,953,068
セグメント利益又は損失 (△)	522,395	△123,853	398,542	△2,069	396,472

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,069千円は、未実現利益及びセグメント間取引の消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。